

4. 新潟県長岡市／高齢者総合ケアセンター「こぶし園」・サポートセンター

<本事例のポイント>

■介護事業の地域分散の理念に基づく既設の特別養護老人ホームの解消と、小規模集住施設の拡大

- ・ 構造改革特区の認定を受け、現在のサテライト型特別養護老人ホームの前身となる小規模生活単位型特別養護老人ホームの整備を進めた。また、中学校区を単位として、地域密着型サービスを併設した小規模集住施設を整備し、本体の特別養護老人ホームの入所者の住み慣れた地域への住み替えを進めている。
- ・ 小規模集住施設に併設された地域交流スペースを中心に、地域の子どもから大人が集い地域コミュニティの核としての機能も果たしている。

■地域包括ケアを支える ICT の活用

- ・ 地域分散を推進し、24 時間 365 日の継続的なサービス提供を実現するため、テレビ電話やタブレット端末等を積極的に活用し、利用者と職員間のコミュニケーションや、職員間でのリアルタイムの情報共有を図っている。

(1) 事業主体（社会福祉法人長岡福祉協会）の概要

社会福祉法人長岡福祉協会は、新潟県長岡市において、昭和 57 年に開設した特別養護老人ホームこぶし園をはじめ、小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所介護施設、デイサービスセンター、24 時間 365 日型の訪問看護・訪問介護や、3 食 365 日型の配食サービス等、高齢者の在宅生活を支える多様なサービスを提供する小規模な集住施設を運営している。

同法人では、従来型の大規模集約型施設では提供が困難な高齢者の地域での在宅生活を支援する取り組みを進めてきた。平成 14 年には、制度の位置付けがない中で、民間の社員寮を自費で改修し、バリアフリー住宅にグループホームや小規模デイサービス、配食サービス、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援事業所を併設した「サポートセンター三和」を開業した（現在は小規模多機能型居宅介護と有料老人ホームを併設している）。その後、国との協議を通じて、平成 16 年に長岡市として「地域社会での暮らしを再構築する長岡市サテライト型居住施設推進特区」として、内閣府の構造改革特区の認定を受けた。

特区における特例措置により、法人の自己所有が義務付けられていた施設について、施設整備費用を抑え、民間資源を活用出来るように土地・建物の賃貸借が可能になったほか、職員配置において分割運営でも既存の施設運営形態と同等となるよう、施設基準が緩和された。これにより、4 か所の小規模生活単位型特別養護老人ホーム（サテライト型居住施設）の整備を進め、長岡福祉協会が運営する特別養護老人ホームこぶし園の定員や機能を各サテライト型居住施設に分散することとした。また、サテライト型住居施設との一体的な運営を前提に、短期入所生活介護や通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、

配食サービス等を実施する小規模多機能拠点施設の整備を進めた。こうした取り組みは、平成 18 年の介護保険制度改正時に、地域密着型特別養護老人ホームとして位置付けられることとなった。

図表 16 主な事業内容

事業	事業所
特別養護老人ホーム	特別養護老人ホームこぶし園（昭和 57 年）
サポートセンター	サポートセンターけさじろ（平成 4 年）
	サポートセンター西長岡（平成 7 年）
	サポートセンター三和（平成 14 年）
	サポートセンター関原（平成 14 年）
	サポートセンター上除（平成 14 年）
	サポートセンター永田（平成 16 年）
	サポートセンターしなの（平成 17 年）
	サポートセンター美沢（平成 18 年）
	小規模多機能型居宅介護アネックス関原（平成 20 年）
	サポートセンター千手（平成 21 年）
	サポートセンター撰田屋（平成 22 年）
	サポートセンター川崎（平成 24 年）
	サポートセンター大島（平成 24 年）
	サポートセンター平島（平成 24 年）
サポートセンター大島新町（平成 25 年）	

注) 長岡市外での取り組みとして、平成 18 年に東京都港区の小学校跡地に整備された「福祉プラザさくら川」の運営事業者として、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、知的障害者入所更生施設等のサービスを提供し、千葉県柏市、東京都中央区においても、同様の施設の開設予定である。

資料) 社会福祉法人長岡福祉協会資料より作成

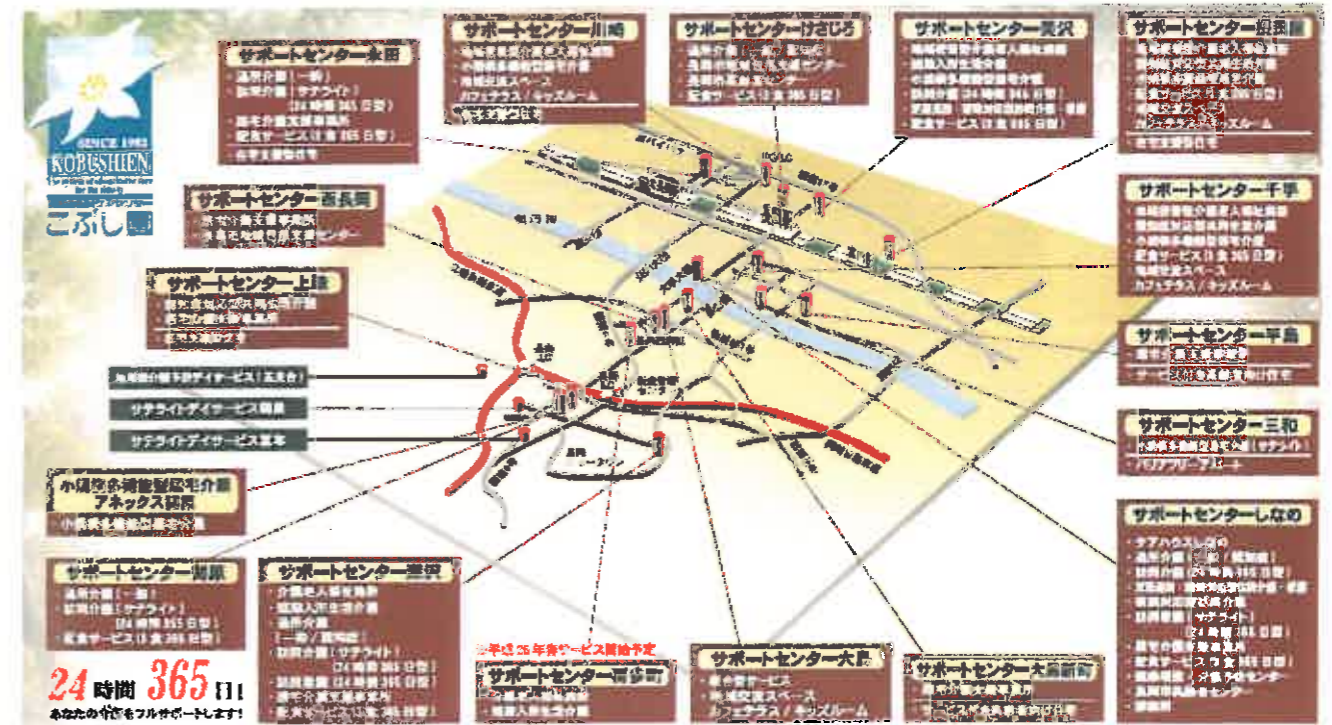
図表 17 長岡福祉協会が運営する集住施設で提供しているサービス

事業所	サービス
特別養護老人ホームこぶし園	<ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設(定員 30名) ・短期入所生活介護(定員 77名) ・通所介護(定員 一般 40名/認知症 10名) ・訪問介護(サテライト)24時間 365日型 ・訪問看護(24時間 365日型) ・居宅介護支援事業所 ・配食サービス(3食 365日型)
サポートセンターけさじろ	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護(定員 一般/30名 認知症/10名) ・長岡市地域包括支援センターけさじろ ・長岡市高齢者センターけさじろ
サポートセンター西長岡	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所 ・長岡市地域包括支援センター西長岡
サポートセンター三和	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護(定員 24名) ・有料老人ホーム(定員 4名)
サポートセンター関原	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護(定員 一般/26名) ・訪問介護(サテライト)：24時間 365日型 ・配食サービス(3食 365日型)
サポートセンター上除	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型共同生活介護(定員 18名) ・居宅介護支援事業所 ・バリアフリーアパート(定員 9名)
サポートセンター永田	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護(定員 一般/26名) ・訪問介護(サテライト 24時間 365日型) ・居宅介護支援事業所 ・配食サービス(3食 365日型) ・バリアフリーアパート(定員 8名)
サポートセンターしなの	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアハウスしなの(定員 40) ・通所介護(定員 一般/30 認知症/10) ・訪問介護(24時間 365日型) ・夜間対応型訪問介護 ・訪問看護(サテライト)：24時間 365日型 ・居宅介護支援事業所 ・配食サービス(3食 365日型) ・しなの健康倶楽部(健康増進・介護予防センター) ・長岡市高齢者センターしなの(入居する「健康の駅ながおか」の1フロアで市PFI事業として運営) ・しなのハートクリニック(診療所)
サポートセンター美沢	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護老人福祉施設(定員 15名) ・短期入所生活介護(定員 3名) ・小規模多機能型居宅介護(定員 25名) ・配食サービス(3食 365日型)
小規模多機能型居宅介護アネックス関原	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護(定員 25名)
サポートセンター千手	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護老人福祉施設(定員 20名) ・認知症対応型共同生活介護(定員 18名) ・小規模多機能型居宅介護(定員 25名) ・配食サービス(3食 365日型) ・地域交流スペース ・カフェテラス/キッズルーム
サポートセンター撰田屋	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護老人福祉施設(定員 20名) ・認知症対応型共同生活介護(定員 9名) ・小規模多機能型居宅介護(定員 25名)

事業所	サービス
	<ul style="list-style-type: none"> ・配食サービス(3食 365日型) ・地域交流スペース ・カフェテラス/キッズルーム
サポートセンター川崎	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型介護老人福祉施設(定員 15名) ・小規模多機能型居宅介護(定員 25名) ・地域交流スペース ・カフェテラス/キッズルーム
サポートセンター大島	<ul style="list-style-type: none"> ・複合型サービス(定員 25名) ・こぶし訪問看護ステーション大島
サポートセンター平島	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所 ・サービス付き高齢者向け住宅(併設)
サポートセンター大島新町	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所 ・サービス付き高齢者向け住宅(併設)

資料) 社会福祉法人長岡福祉協会資料より作成

図表 18 長岡福祉協会が運営する各集住施設の立地状況



資料) 社会福祉法人長岡福祉協会資料

(2) 集住施設「サポートセンター撰田屋」

①施設概要

旧長岡市区域には14の中学校区が設定され、長岡福祉協会では、現在15のサポートセンターを運営し、概ね中学校区ごとに各サポートセンターが立地している。このうち、平成22年7月に開設されたサポートセンター撰田屋は、サポートセンター美沢、サポートセンター千手に続き、構造改革特区の事業として整備された、本体の特別養護老人ホームこぶし園の利用者を従来暮らしていた地域に戻すための集住施設である。

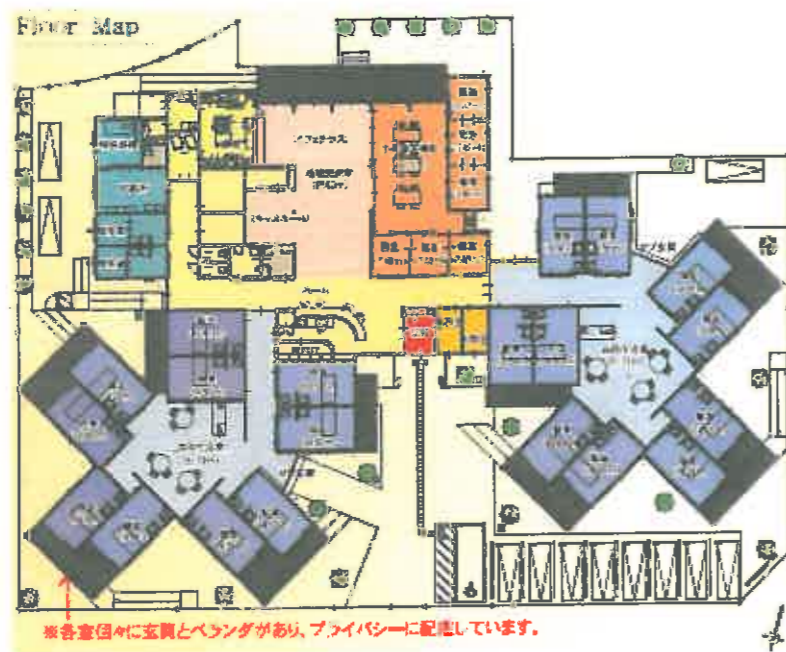
サポートセンター摂田屋は、こぶし園からの住み替えのための地域密着型老人福祉施設（定員 20 名）のほか、小規模多機能型居宅介護（登録定員 25 名）、認知症対応型共同生活介護（定員 9 名）、及び長岡市の単独補助事業により整備された在宅支援型住宅¹（10 室）で構成されている。

地域密着型老人福祉施設は、各個室には玄関とバルコニーが設置され、共有部分を通らずに外部から直接出入りでき、入居者のプライバシーが保たれている。

また、小規模多機能型居宅介護や、カフェテラス、キッズルーム、地域交流スペースと一体の建物として整備されている。

図表 19 サポートセンター摂田屋の平面図

【地域密着型老人福祉施設・小規模多機能型居宅介護】



【認知症対応型共同生活介護（1 階）、及び長岡市の単独補助事業により整備された在宅支援型住宅（2 階）】



資料) 社会福祉法人長岡福祉協会資料

¹ 単独補助事業介護サービス事業者と併設もしくは隣接して建設される、高齢者向け住宅に対して 1 室あたり 100 万円/室、上限 1,000 万円の補助が交付される。

図表 20 サポートセンター摂田屋の外観・施設内の様子



資料) 「地域で暮らす、地域に戻るーサポートセンター構想とはー」医療介護福祉政策研究フォーラム・第 1 回実践交流会 社会福祉法人長岡福祉協会 総合施設長 小山 剛氏講演資料 (平成 25 年 6 月 29 日) より抜粋

②事業内容

■介護保険サービス

長岡福祉協会では、地域での暮らしをフルタイム（24時間 365日）のサービスで支える体制を構築するため、ICTを積極的に活用している。

平成24年度の制度改正で創設された定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、長岡市内の川東西圏域と川東東圏域において先行的に開始した。（その他の地域では、従来からの夜間対応型訪問介護で対応している。）長岡福祉協会では、厚生労働省の「未来志向研究プロジェクト」を活用し、利用者の住宅とヘルパーがテレビ電話で24時間365日つながる体制を整えたほか、経済産業省の研究事業で整備したタブレット端末を活用し、職員間での訪問介護・看護の利用者データの共有を図っている。

テレビ電話端末は、利用者がボタンやパネルをタッチすれば、携帯電話を所持しているヘルパーと自動的に連絡が取れるようになっており、端末には、ヘルパーが夜間でもモニターを通じて利用者の様子が分かるようにライトがついている。また、利用者が端末のボタンを押さなくても、ヘルパーから利用者に安否確認の連絡を取ることも出来る。ヘルパーは、利用者からの連絡に迅速に対応出来るよう、常に4台の携帯電話を所持している。長岡福祉協会では夜間のヘルパーは2名単位で配置しているため、オペレーター業務とヘルパー業務の双方に臨機応変に対応している。長岡福祉協会のヘルパーは全体で26名おり、テレビ電話を通じて200名の利用者へサービスを提供している。

また、タブレット端末を用いて、蓄積された利用者400名程度の基礎データと介護・看護の記録データをヘルパー間で共有している。端末は、利用者の所在地を地図上に表示出来るほか、関係機関に連絡を取ることも可能である。また、ヘルパー間での申し送りが不要になるほか、ヘルパーが事務所に戻ってからの記録作成が不要となるため、介護報酬の請求にも連動出来る。タブレットに入力された利用実績は、利用者向けと事業者向けにそれぞれ紙媒体として出力出来るほか、データはクラウド上でも保管されている。現在、26名のヘルパーで20台のタブレット端末を活用している。蓄積されたデータは、関係医療機関の医師や訪問看護スタッフにも共有されている。医師からの訪問看護指示書をPDFファイルとして閲覧可能であるほか、カメラ機能を活用して撮影した画像を医師に見せることができ、各担当者からの申し送り事項が端末上に時系列で表示される。さらに、利用者が訪問看護と訪問介護を利用している場合も、連携アプリを通じて、関係者からの経過観察についてのコメントを共有出来る。

こうしたICTの活用により、ヘルパーの記録を見た医師からの指示により、医療の面でも適切に対応でき、在宅でのターミナルケアでも、定期的な経過観察ができ、病院と同じケアが実現できている。さらに、当初、システム導入に消極的であったヘルパーからの評価も高く、経過観察への報告等、ヘルパーの質の向上にもつながっている。

■生活支援に関する事業

サポートセンターでは、3食365日の配食サービスを提供している。現行制度上、施設や職種ごとに配置すべき職員数が定められているが、将来的には、配食サービスのスタッフにも介護に関する資格を取得させ、すべてのスタッフがあらゆる業務に従事し、利用者のニーズに臨機応変に対応出来る体制づくりを目指している。

図表 21 サポートセンター摂田屋内のカフェテラス、地域交流スペース、キッズルームの様子



資料)「地域で暮らす、地域に戻るーサポートセンター構想とはー」医療介護福祉政策研究フォーラム・第1回実践交流会 社会福祉法人長岡福祉協会 総合施設長 小山 剛氏講演資料(平成25年6月29日)より抜粋

③入居者の特性

各サポートセンターでは、半径1～3km圏内に居住する高齢者を対象としており、基本的に、利用者は住み慣れた地域に立地するサポートセンターに入居している。

④地域との連携

■地域のコミュニティの拠点としての役割

併設のカフェテラスでは、無料でコーヒーを提供し、利用者が自由に利用出来るようにしている。

また、キッズルーム、地域交流スペースには、地域の子どもから大人まで自由に出入りし、地域活動が行われるほか、近隣住民も、ボランティアとして施設の運営をサポートする等、身近な地域コミュニティの拠点としての役割を果たしている。

(3) 今後の展開等

長岡市は、平成 22 年の合併を経て人口も約 28 万人に拡大したものの、平成 9 年から人口減少傾向が続き、高齢者は年間約 1,000 人程度のペースで増加している。しかし、数年後には高齢者数も減少に転じる見通しであり、個室が完備された住宅系の施設の供給が進む中で、これまでの生活で接点のない利用者が同じ居室で暮らす特別養護老人ホームに対するニーズは低くなることが予想される。長岡市をはじめとした地方都市では、こうした多床型の集住施設のあり方について検討が必要となっている。

とりわけ大規模な集住施設は、郊外部に立地しており、利用者の多くは住み慣れたまちなかから転居を余儀なくされている。地域包括ケアシステムの構築により、こうした状況を解消し、家族による介護に頼りきりにならない形で、在宅での生活を出来る限り継続することが求められる。

平成 26 年 3 月には、「サポートセンター喜多町」(特別養護老人ホーム(移動 30 名 新規 30 名)、短期入所生活介護(定員 7 名)、カフェテラス)が開設し、川西地区からこぶし園に入居していた 30 名が住み替え、当初のこぶし園の定員 100 名全員が住み慣れた地域のサポートセンターに戻ることが実現した。今後、さらに地域分散を進め、川西地区各地への分散を進めていくこととしている。

このほか、こぶし園の隣接地でサービスを提供している拠点「アネックスこぶし」(短期入所生活介護、通所介護、認知通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援事業所、配食サービス)についても、15 か所のサポートセンターの稼働状況や地域ニーズを踏まえつつ、利用者の段階的な地域分散に取り組むこととしている。